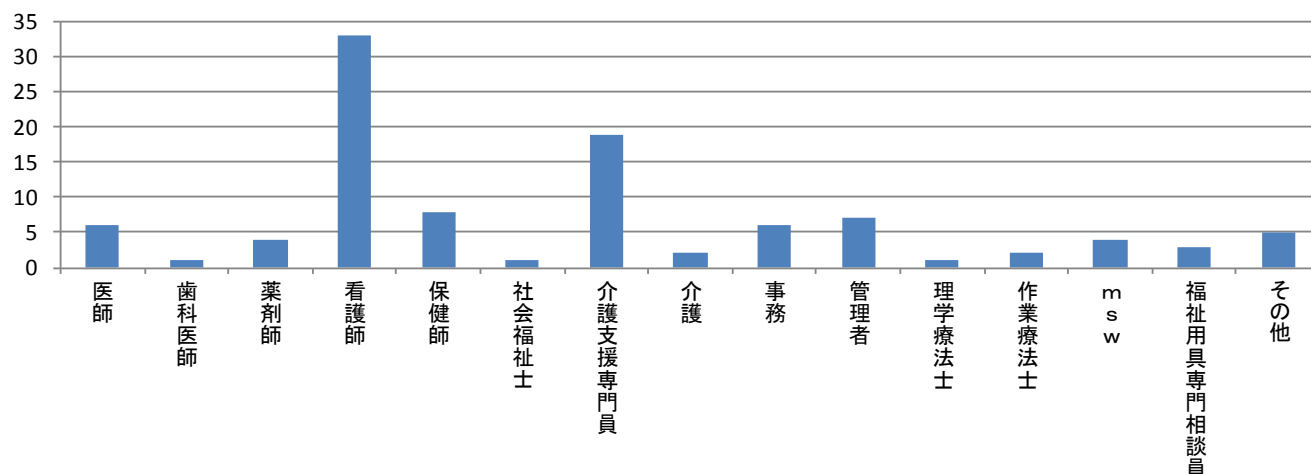
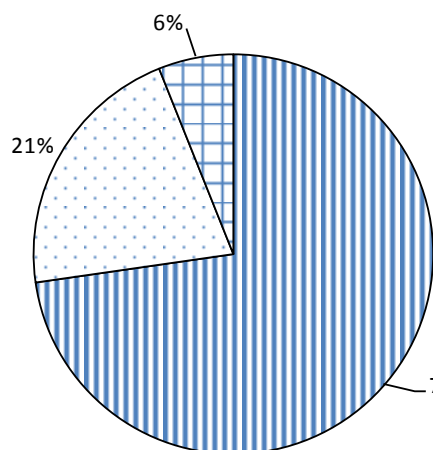


平成29年度第1回医療・介護多職種連携会議 アンケート結果

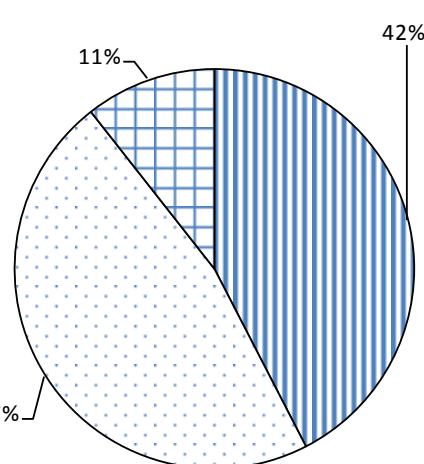
参加者内訳



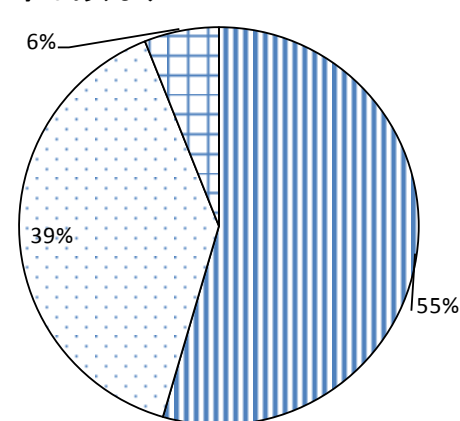
自分の考えを発表することが出来ましたか？



KJ法によるグループワークはどうか？



「新見地域の看取り」について今日の研修で気付いたり、考えが変わった事がありますか？



■はい □どちらともいえない □いいえ

研修会参加者数 102 名 アンケート回答者 67 名 回収率 66%

Q5. 「新見地域の看取り」について今日の研修で気付いたり、考えが変わった事がありますか？

- ・医療・介護れんらく帳をつかうこと
- ・看取りは個々に違って、関わって行く私自身も他人事ではない！と思いながら、日々悩んで仕事をしております。その時その時精一杯ですが、お話を聞けて良かったです
- ・「看取る」に近い立場に今あります。受け入れることが難しいですが、気持ちが少し落ち着きました
- ・現在、訪問介護事業所で訪問させて頂いているターミナルの利用者様への接し方を学びました。笑顔が出るよう接したいです
- ・誰にでも訪れる最期、そのことについて少しずつ意識づけが出来る様、話題にあげて本人、家族たちと話していきたいと思います
- ・病院での入院について相談可能であること
- ・医療・介護れんらく帳の活用方法
- ・津崎先生のお話を初めてきき、とても温かさが伝わって来ました。看取りを正面から話せる医師として今後も期待しています
- ・もう一度看取りについて今までを振り返ってみたいと思いました
- ・意思の確認、情報共有、地域連携、教育などの必要性を再認識することが出来ました
- ・他職種の人の話をきくことで視野が広がる

平成 29 年度新見市在宅医療・介護連携推進事業

- ・老々介護の場合、独居が多く、それに対しての支援が課題
- ・医療関係のため、どうしてもこちらが看取る側で色々考えてしまうが、看取られる側での考えもある必要がある
- ・病院ではそのように考えられていたのか…と初めて知った
- ・医師の立場からの詳しい話が聞けてよかった
- ・病院での看取りにおいて、病院としてもとても地域を意識して下さっていることがわかりました
- ・日々からご利用者との、コミュニケーションの中から看取りについての希望を確認していくことが大切。そのことでケアがご本人にとってより良いものになるということ
- ・自分の出来ることはしてあげたいと思います
- ・改めて看取りを考えることが出来た。身近な事として、自分自身、家族とも話し合っていきたいと思う
- ・本人の希望をしっかりと聞き取る
- ・医療・介護れんらく帳の活用を勧めることが必要だと思いました。また、患者さんがどのような思いをもっているか、把握できる良いツールだと思いました
- ・施設での看取りは困難、でも出来る所までは看たい

Q6.「新見地域の看取り」とは、どのような形を目指していくべきだと思いますか？

- ・「出来る範囲で、出来ることを」でいいと思います。どうしても県南等よりサービスが限定されてしまい、在宅の看取りには限界もあると思うので……。今あるサービス・体制を大切にしながら、自分達のスキルアップはしっかりしていく必要があると考えます
- ・日頃から話すこと。家族、病院、施設など
- ・生前からの本人の死への受け止め方、又家族や地域を含めた死への考え方、幼児期からの死への教育も必要と思われる。会話、対話が出来た環境づくり、場の提供も大切
- ・人口減で在宅は難しいと思います。看取りではないが、元気な高齢者、近所の人と仲良く、新見に住んで良かったと思えるように
- ・先は見えにくく正解は見つけることは出来ないと思います。ただ、関わる中で一時でも安心、安楽を共に味わうことが出来たらと、今はそれぐらいで毎日手探りでしております
- ・関係機関、担当者が輪を作って良好な関係で対象の方、ご家族を支える
- ・心安らかに死に行くことが一番大事な事で、新見地域に限ったものではないと思います
- ・訪問サービスの充実と、病院と在宅スタッフの連携を充実させる事
- ・普段何気ない会話から終末期の過ごし方の話が出来るように、ケーブルテレビや備北民報で特集番組を作ってほしい。テレビや新聞の話題があれば、いろいろな世代が話しやすくなると思います
- ・医療、介護、多職種の連携をとり、勉強会を開くこと
- ・医療・介護従事者の意識統一
- ・訪問系の医療サービスの充実、受け皿がそろわないと本人・家族の病院依存は減らないのでは…
- ・一番は最期を迎えたい場所で死ぬことが出来る体制づくりが出来ればいいと思う
- ・先生の話されたように最後はどこでも OK となれるようにしていけたら良いと思います
- ・地域全体で看取っていく。そのために情報共有・連携の強化
- ・今後もまたこのような機会を作り、風通しのよい関係を作っていくべきだと思う。
- ・若い人たちの協力をどこまで得ることが出来るのか、サービスの充実、安価な物を増やしてほしい
- ・患者様が行き場がないようにはならないように、どこかで見てあげられるように連携がとれる
- ・自然死、看取りについての知識などをもっと広めていながら、医療・介護すべてにおいて連携をとり、全体として考えていく
- ・看取られる側が、そういう状態になるもっと前の段階から、自分の最期のビジョンをもっておけるように情報提供、研修会などの啓蒙活動をしっかりしていくことが必要なのでは
- ・本人の意思が望むようなケア
- ・昔のような家族が話し合い、看取りができる環境
- ・誰もが考え、語ることが出来る
- ・みんなが主役！看取る、看取られる側の役割にとらわれない
- ・あたたかい最期を迎えられるように、しっかり学んで選択できるように
- ・一般の人たちが今新見でどういう看取りが出来るかを知らないと思う（介護サービスも必要にならないと知ろうとしない）。こんな風出来る、してほしいイメージをしてみる機会を、まず作るというのは
- ・全てが在宅でなくても良いと思います。本人だけでなく家族に無理がないようにしたいです

平成 29 年度新見市在宅医療・介護連携推進事業

- ・積極的に利用者又は患者と迎えたい最期について話し合うことが大切
- ・講演会等を行い、社会全体の意識を変えていく
- ・「新見地域の看取り」について経験談等をまとめたものを、それぞれの立場で作成、配布し子供も大人も老人も一緒に考えること
- ・本人・家族の思いを大事にできること
- ・その人、また家族の思いをしっかり受け止めて、連携しながらの看取り
- ・自分が理想とする看取りをしてもらうために何をすべきかという事を考えた方がよい
- ・マンパワー不足を補える形、連携をより深められるようにしていけたらと思います
- ・自宅で最期までの看取りは難しく、少しでも自宅で長く過ごせるように支え合う、支え合える形にしてはどうか
- ・本人含め家族や親しい人が看取りに対する意識を高く持つ
- ・本人の最期を迎えたい場所で最期一緒にいたい人との看取りに近づけるように多職種にて連携をする
- ・色々な職種で助け合い、連絡を取り合って患者様のために少しでも希望を聞いてあげられたらと思う
- ・地域の方、看取りの患者さん、家族に対して聞きたいことを引き出しながら、いろんな観点から分かっているような時間、場をもっともっていく
- ・患者さん本人が希望する形で「死ぬこと」を実現できること、希望していない形で死ぬことにならないようになれば...
- ・その当人の思いをみんなが情報共有して、同じ方向をむけて支えていけるつながりの強化
- ・診療所や病院、施設で連携していただき、本人や家族が希望する最期に少しでも近付いた形での看取りが出来たらいいと思います。そのためにも住民が考える機会があればいいですね
- ・痛みがなるべく少なくてすむ。そして、本人の笑顔が終わりの日まで少しでも引き出せる関わりが必要ではないでしょうか？家族も現在は別生活の方が多く、当事者の思いはなかなか汲み取れないのが現状だと思います
- ・本人の気持ちを大事にしたい。家族には負担になることも出来るだけ、本人の意思を聞いてあげたい
- ・看取りの選択肢が限られてはしまわないような体制。しかし、病院や介護施設の負担が増えない様、自宅での看取りの形が多めになれば

Q7. 講義の内容や、会議の企画・運営に対するご意見（グループワークの方法など）があればお書き下さい。

- ・これからますます大変な時期になると思いますが、現場の人材が足りていません
- ・KJ 法いつも楽しみにしています
- ・グループワークの時間が短く、話すことが難しかった
- ・多職種で話し合う時間も多く取ってほしいと思います
- ・津崎先生の講演が聞けて良かったです
- ・グループワークの進め方資料があるのでスムーズだと思います
- ・ワールドカフェ方式もいいと思います
- ・グループワークは皆さんの意見がきけていい

※同じ内容のご意見はまとめて掲載させて頂きました。